

熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 平野みどり
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム事業の説明責任を求める要望書

白川流域4市町村（熊本市、菊陽町、大津町、南阿蘇村）でつくる「白川改修・立野ダム建設促進期成会」が5月20日に総会を開き、立野ダムの本体工事の早期着工と事業の推進を強く要望する方針を決めたことに対し、私たちは6月4日に抗議文を提出しました。

ところが、新聞報道によりますと熊本市長らは7月30日、国土交通省に対し立野ダム本体工事の早期着工を求める要望書を提出しました。

白川中流域（大津町と菊陽町）では河川整備計画が策定されておらず、白川の川幅を拓げるなどの改修計画は全く策定されていません。2012年の九州北部豪雨の様な降雨があれば再びあふれてしまうことは明らかであり、私達も国土交通省や熊本県に対し白川中流域の河川整備計画策定を何度も要望してきたところです。熊本市長らが同要望書の中で、激甚災害対策特別緊急事業区間の事業推進や未改修の中流域の新規事業化など、白川改修の促進を要望したことは高く評価します。

一方、立野ダムの総事業費は、当初予算の2倍以上の917億円に膨れ上がり、熊本県の負担額は917億円の3割、275億円（県民一人あたり約1万5000円）にもなります。公共事業は本来、住民の税金により、住民のために行われるべきものです。ところが、白川流域に住むほとんどの人たちは、「立野ダムはどんなダムで、何を目的につくられるのか、どこにできるのか聞いていない」という実情です。にもかかわらず、事業主体である国土交通省は、住民が要望している立野ダムの説明会を開催しようとしません。「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」が国土交通省に説明を求めた集会さえも、同省は出席を拒否しました。さらには、住民団体が繰り返し提出した立野ダムに関する質問状にさえ真摯に回答しようとせず、「当省のホームページを見るように」との見解を繰り返すばかりです。国は住民に対し、立野ダムについての説明責任を果たしているとはとても言えません。

立野ダム事業が多くの問題を抱えている点は、これまで何度も提出しました要望書等で述べたとおりです。立野ダム事業についての説明責任が全く果たされていない状況の中、熊本市長らが立野ダム本体工事の早期着工を要望したことに本日、抗議文を提出しました。熊本県としても下記2点について国土交通省に要請することを再度、強く求めます。

記

1. 白川流域の市町村ごと、熊本市にあっては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催することを、国土交通省に要請すること。その際、住民の質問については真摯に回答し、住民の意見を十分に聞くこと。
2. 上記説明会が開催され、国が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダムの転流工事（仮排水路トンネル工事）に着工しないように、国土交通省に要請すること。

以上